

第6回森町総合計画審議会議事概要

日 時：平成18年1月31日（火）午後2時～3時30分

場 所：町民生活センター 講義室A・B

出席委員：鈴木奉会長、友田和副会長、太田委員、榊原委員、岩瀬委員、岩附委員、打田委員、大竹委員、大場委員、奥宮委員、小倉委員、小野委員、片岡委員、川口委員、鈴木よ委員、友田明委員、原田委員、村松委員、山根委員

事務局：町長、助役、鈴木課長、杉山課長補佐、長野係長、福島主事
静岡総研（石井主任研究員、澤田研究員）

1 開 会

2 会長挨拶

3 議 事

（1）森町総合計画基本構想（案）について

<資料に基づき事務局説明>

委員からの意見を踏まえての修正箇所の説明等

<意見・質疑応答等>

委 員： 第2章の「まちづくりの基本理念」の整理、考え方についてだが、まちづくりの様々な取り組みにおける共通の指針となるものということで、全体的な基本の考えとなっており、5つの基本理念が出てくる。これらが、町民一人ひとりが意識していくべきものだと考えると、これが悪いということでないが、分かりづらいところがあるのではないかと思う。具体的な姿としては、第3章に「まちの将来像」の中で「ええら森町」という素晴らしい言葉が出てきており、将来像の中で、森町の目標、進むべき方向というものが見えてくる。基本理念の捉え方だと思うが、町民一人ひとりが意識すべきものと書いてあるので、もう少し分かりやすい言葉でも良いのではないか。例えば、4Pの下段に、「住む人も、訪れる人も、家庭も、地域も、みんながみんなのために、力を合わせ、協働することで、だれもが快適で安心して過ごすことができる、郷づくり、人づくりをめざします」と書いてある。こういう表現の方が分かりやすいという感じがする。基本理念の表現の仕方について、今までの検討結果等もあるが、どういったものか、お聞かせ願いたい。

事務局： 基本理念の考え方や表現ということだが、少し抽象的なのではないかというご意見だと思う。まちの将来像については、「みんながチカラの郷づくり」、みんなで作っていくんだということ、その際には、「これまでの伝統を含めて、良いものは復活させ、その中から新しいものを創ってはどうか」という整理をしている。

基本理念の位置づけとしては、少し難しくなると思うが、行動規範のようなイメージで考えていただきたい。例えば、ゴルフの話で例えると、このぐらいのスコアであがりたいというのが目標であり、それが、ある意味「将来像」となる。その目標に達成するために何でもやってよいというわけではなく、ルール違反をしない、人と仲よくやるといったものがあると思うが、これと重なるのが「まちづくりの基本理念」にあたると考えてはどうかと思う。将来像を達成するための精神論とまで言っていいかわからないが、連携、協働しながらやっていく。その際には、自立と個性を大事にしますよ。いろいろなものを創っていく時は「調和が大事ですよ」といった行動指針を表現している。将来像と重なる部分もあると思うが、もう少し、ご指摘があったように分かりやすくといった形で広報していきたいと思う。基本構想を示すとき、基本理念が町民にとってどういうものかということを知りやすく提示するようにしていきたい。前回配った資料1 A 3の横表にあるような位置づけを示しながら、町民には情報提供していきたいと思う。また、ある程度簡潔にということで、こういった文章の量で整理しているところでもある。

委員： 基本的なことは分かるのだが、5つに分かれていて、具体性がないので分かりづらいところがある。先に将来像を出しておいて、それに向かう行動規範として「みんながこういうふうにしていくのですよ」という整理はどうか。「将来像」があって、その上で「連携や協働」といった理念が入ってくると分かりやすいのかなと思う。そうすると「ええら森町」がぐっと前に出てきて、町民は考え方や行動規範となる「基本理念」が十分理解できるのかなと思う。

事務局： 考え方とすると、第1章で「基本構想の策定にあたって」がきて、第2章で「まちの将来像」がきて、その後第3章で「基本理念」がくるという意見だと思うが、委員の皆様のご議論をいただきたいと思う。

会長： 基本理念についてのご意見がありましたが、これに関連しての意見でもよいですし、他に何か、ご意見があればお願いしたい。

委員： 今のご意見は、この構想をいかして、効果を出すには、町民のものにする必要があるという考えの中で、分かりやすく、理解しやすくということだと思うのだが、前回の審議会に参加して、委員の皆

さんの意見を伺ってみても、とにかく町民が共有できるようにというところを心配されていたように思う。前回の委員の意見が反映された見え消し版の文面をみても、当局としても、意見を逐一精査し、言わんとすることを感じ取っていただきながら、改善してあるなど思い、その辺はありがたく思う。

あえて、もう一度言わせてもらおうと、私もかなり表現ということについてはこだわりがある。そのところで違和感というか、理解しにくいところがあると、町民のものになっていかないのではないかと思う。文面の修正ということではなく、表し方をものすごく工夫すれば、分かりやすくなるのではないかと思う。(黒板を使って説明)今回つくるのは「基本構想」、その後「基本計画」をつくる。そして「実施計画」に移る。「実施計画は5年ごとぐらいにつくりますよ」という形で出てくるとは思うが。「基本構想」をつくる時には、協働まちづくり委員会の提言やアンケート結果、地域ごとの懇談会などの意見が反映されている。「実施計画」については、評価委員会みたいなものがある、「実施計画」に対して評価がなされ、見直しをし、次の修正案が出されるというのが総合計画の流れだと思う。

こういうものが総合計画であるという図のようなものを基本構想を出していく時に表現すればよいと思う。基本構想の部分だけが色濃く出ていて、前回、意見があったのは、「基本構想だけ出ていくと抽象的すぎて分かりにくいのではないか」ということだったと思う。総合計画の仕組みが図示されたものを出していくと基本構想はこういうものだということが分かると思う。「基本計画」、「実施計画」が出てくると、「基本構想」の抽象的な部分も解消されてくると思う。「基本構想」もそういう位置づけのものであるという理解が進むと思う。基本構想には町民の意見が反映されているということも分かり、行政が単独でつくっているものではないということも分かる。仕組みを図案化して示していくことで、字句、言葉とは違った分かりやすさを表現できると思う。

また、各項目で本当に言いたいとすることは、挿絵などを入れていくのが良いのではないか。最近では映像文化であり、なかなか優しい文章でも見てはもらえない。基本構想の冊子を開いたら挿絵があって、その言葉を見たら、ここで言わんとしていることが分かるといった、そういう柔らかい表現も工夫していったらどうか。

特に、心配することは、「総合計画は行政のもの、行政は何をやってくれるのだろう」というところである。「構想を出しても何をやるのだろう」と見る。表紙から変えてみてはどうかと思う。総合計画という文字を主タイトルにするのではなく、例えば、将来像の「ええら森町」というのは、住民参加というよりは、親しみを作り

上げる総合計画のやわらかさだと思うので、「みんながチカラの郷づくり」ということが、この総合計画の神髄であるということ、みんなで作っていくんだということ、表紙に出していったらどうかと思う。

委員： 前回、質問させてもらったが、基本構想が出て、その後基本計画という段階を説明してもらったので、基本構想の位置づけについては分かるが、町民にとっても、何かをやる時は、絵が必要だと思う。絵はこれから基本計画の中で何をやっていくのかということが出てくるということであると思うが。

例えば、会社であれば、「5年間で売り上げを倍増させる」という目標がある。それに向かって努力をする。それが理念であったり、スローガンであったりだと思う。そこが後で基本計画という部分で出てくるということなので、分かりづらくなっていると思う。例えば、教育の分野でも、学力を上げようとか、人格、道徳教育をしようする時、「じゃあ挨拶をしよう」とか、「これだけ学力をあげよう」とか目標があるから、そのために、我が校ではこういうことをしていこうということが出てくる。そこで必要なのが、理念であり、スローガンであると思う。基本構想は、何かの所信表明みたいなものが出てきただけの感じがするという意味で、前回は意見を言わせていただいた。

委員： 私の立場からすると、この流れが普通だと思う。皆さんがおっしゃっているのは、こういう計画を作っても、いかに町民に納得してもらって、なおかつ、協働の精神で、どのようにして森町をつくっていくのかという視点だと思う。今回の基本構想の作り方は、「基本理念」があって、「将来像」があって、その手段をどうしていくかという順番で作られている。これは一般的な行政の素直な流れであり、いきなり「将来像」、「将来の目標」を出てくると、そのあとに、当然「施策」が出てくることになる。「施策」がなんのためにあるかということを考えていくとだんだん細かくなっていってしまう。そうすると「理念」を位置づけるところが無くなってしまふ。そこで「将来像」の前に「理念」をもってきている。おっしゃっているのは、町民の皆さんがいかにこの計画が自分たちのものであるということを理解できるのかということだと思う。こういった計画を広報等でPRする時に、こういった方法でやるのか、また、もっと分かりやすくといった時に、さし絵を入れていくといった形になると思う。

基本的には、広報のやり方ひとつなのかなあと思う。現在、合併が進み、いろいろな地域で、さかんに総合計画がつけられている。私もそういった場に参加しているが、どこも基本的には同じ流れで

きている。せっかく自分たちで作っているのに、別な流れで、もっとほかの方法でいきたいとということであれば、別な考え方で進む方向があるのかもしれないが。「森町独自の総合計画はこんな風で作っているんだ」、「総合計画というのはサブタイトルでいっているものであり、タイトルは別のところにあるんだ。例えば、「ええら森町」というのがそうなんだよ」という話になればまた別かなと思うが。

会 長： 内容については、協働まちづくり委員会の意見を十分に踏まえており、その中で、どういう表現をするかということだと思う。いろいろご意見もございましたが、なにかご意見がありませんか。

委 員： 結論からいうと、私はこれでいいのかなと思う。2章と3章入れ替えても、どちらでもいいのかなと思う。ずばり言うと、納得するものを作ろうとするならば、自分たちで作らないと駄目である。行政が作ったという意識が強い。町民が忙しくて出来ないから行政が作っている。それではまずいと思って、協働まちづくり委員会を立ち上げて、提言を出した。これに携わった人は、自分たちのものであるという意識がある。こういう審議会は、忙しくてなかなか集まれないこともあり、何かたたき台を出さなくてはいけない。能率的なことを抜いて考えると、自分が文章を書かない限り納得はできない。それをやるかどうか。通常審議会ではやらない。みんなお忙しい方が多いので、「だいたいこれでいいんじゃないか」ということになる。基本的に、基本構想なので、このレベルでいくら言ってもしょうがない部分がある。基本計画で、具体的に検討していくこととなる。昔は目標設定型であり、その目標が明確であれば出していくのであろうが、今、難しいのは、町民が一つの目標でもって集結するということはある得ないということである。Aという考えの人もいれば、Bという考えの人、Cという考え方の人がいる。それを納得させるための住民参加というのは、集まって長い時間をかけてやらざるえない。作るときに参画しないと自分のものにはならない。直接民主主義で、みんなが直接やればよいのだが、なかなかできないので、代表者がやる。そういうことを回避するためには、基本構想はこれでいいと思うが、基本計画をつくるにあたっては、委員の皆さんが手応えを得るためにも、細かい施策にあたり、時間のある人は参画して内容をつめるような仕組みでやれるのか。通常はやらない。というのは、行政にはいろいろな部門があって、そのために役人がいるという考え方もある。

今まではやらなかったが、新しいメニューとして、協働まちづくり委員会などの仕組みを入れて作成してきた。審議会では通常、専門分野の人が出てきて、それでいいのかどうかということ議論す

る。どれがベストかといえ、一番良いのは、自分の仕事を差しおいて、自らが文章を書いて、たたき台を作る。でも、それはなかなか不可能に近いと思う。森町はそんなんでは駄目だということであれば話は別になると思うが。

会 長： いろいろとご意見があるが、要は、総合計画なるものについて、町民が良く理解して、協働していけるようなものでなくてはならないということだと思う。時間をかけてやるということもあるが、具体的に基本構想という形で諮問を受けているので、これをどうするかということ、もう少し皆さんからご意見はないでしょうか。

委 員： ご意見があったように、多くの要素、要因を含んだ審議会というものは難しいなと思う。森町の住民である我々が森町単独で自分の行く先を考えて、それだけで通るなら話は簡単だが、今の世の中は狭くなっているとも言えるし、逆に広がっているところもあるとも言える。我々のやることはすべてに影響するし、影響される。そういう環境下になっている。若者と高齢者の意見の差も甚だしくなってきた。核家族化や少子高齢化、いろいろな問題があり、まちづくりは非常に難しいと思う。現在の森町は、2年前に市町村合併の波が来て、ともあれ、単独で動き出した町であり、この町がどうなっていくかということは、近隣の人も非常によく見ていると思う。それだけに、なんとか「単独の道を歩んでよかったね」と言われる町にするためには、第8次総合計画をしっかりと立てていきたいと思うが、問題が非常に多すぎて、これらをすべて網羅して策定することは難しいと思う。

第7次の総合計画も見直してみた。立派な冊子が出来上がっているが、10年前のこの構想に書いてあることが、現在まで何%くらい実施されたのか。どこまで可能だったのか。出来なかったとすれば、なぜ出来なかったのか。そういうチェックというのは実際されていないのではないかと思う。企業の場合だと、プラン、ドゥ、チェックという言葉があるが、まず自覚する。それから行動に移す。その結果をチェックする。必ずなぜ出来なかったかというところまで議論する。この場合だと、行政内部では、分かっていると思うが、町民にとっては絵に描いた餅ということで終わっている項目が多いのではないのかということを感じる。これでは、立派な本を印刷しただけで終わってしまう。こういう立派なものでも、総合計画の中で骨となるもの、骨格となるものを表現していく。基本構想については、今日までの段階では、意見があったように、理想はかくあれということでもいいと思う。来年度になって、実際に基本計画になってどういうことを諮るかということ、非常に大きな問題に町民は真剣に取り組まなくてははいけないと思う。真剣にならせるため

のテクニック、手段というものを我々も考えなくてはいけないと思う。私も産業界に身をおく立場として、やっぱり大事なこととして財政面にもかかわることだと思うが、産業の振興というのは、何をあいても考えなくてはいけないことだと思う。森町にとって可能な産業界というのは何だろうかというところに突き当たると思う。大規模工業の集積地にするということは考えていない。ではなくて、もっと他に生きていく道があると思う。何を選ぶかということがまちづくり構想の大きなポイントになると思う。

例えば、「遠州の小京都」という言葉が使われており、看板も出ているが、この町が「遠州の小京都」ということに相応しい佇まい、機能、魅力あるものを備えているかということ、ちょっと恥ずかしいというのが、現状ではないかと思う。そういう言葉を使うのをやめようというのであればそれもよし、そういう言葉を使うのであれば、それらしいことを行動に移す。具体的な策をもって計画の中の主な骨として町民に訴えていく。協力をお願いする。一緒に考えていく。基本構想の段階から、わあわあ言ってもまとまらないが、だんだん「これだけはやろうよ」ということに的を絞っていく。そうすれば、環境の変化も町民の目に見えてくる。専門家の意見を聞きながら、内外の知恵を結集して、客観的な目からものを考えながら結論を絞っていくことが望ましいと思う。

委員： PRの仕方については、大変難しいことだと思う。今、年寄りは一覧板が来ても見ない人が多く、字が見えない人も多い。漫画的な大きなコマーシャルのような、簡単な絵のようなものでないと徹底しない。いつも話になるのは、「森はどうなるだ、ええだかね」ということになる、分かりやすく「森はこうやっていくんだ」ということを出すような計画にしないとまた駄目になってしまう。年寄りが納得するようなPRをしないといけない。一番見るのは、一覧表のようなものをみる。1年間これをやろうよということが分かればよい。それから「協働」という言葉が分からないということもある。「言われればやるよ、でも協働、協働言われてもどういうことをやるのか分からない」、それを理解できるようなものでないといけない。具体的に出していかないといけない。基本構想の文章についてはこれでいいと思う。何も言うことはない。素晴らしい原案だと思う。これをいかにPRしていくか。薄くてもいいのでみんながしっかり読むようなものを作ってもらいたい。

委員： 基本理念と将来像、キャッチフレーズの取り扱いというか、順序について意見が出されているが、今回の総合計画の作成にあたっては、大きな柱として「協働」ということが謳われている。協働まちづくり委員会、町民アンケート調査、地域ごとの懇談会などが行わ

れて、それらの意見を踏まえて総合計画を作成していくということでスタートしていると思う。協働まちづくり委員会から出された「まちづくり構想に関する提言」、この各戸に配布されている提言をかなり尊重して、今回の基本構想が作られていると思う。キャッチフレーズが掲げられているが、基本理念をもとにしてキャッチフレーズを作成しましたという形をとっているので、やはり、基本構想も形としては基本理念があって、それに基づいてキャッチフレーズが出ているという形を尊重した方が良いと思う。

PRの件については、協働まちづくり委員会も公募委員を5名募集し、地域ごとの懇談会も14ヶ所という細かい地域で実施し、町民アンケート調査も全員ではないが実施している。そういったことを積み重ねながらここまで作られてきた総合計画なので、PRしてどこまで反応があるかということについては難しい部分があると思うが、いろいろ形をかえてPRしていくことは大事だと思う。今回まで議論を積み重ねてきた基本構想については、ある程度尊重しなくてはいけないと思う。後はどこまでPRできるかということになってくると思う。

委員： それぞれの委員の皆さんのご意見、それぞれ貴重だと思う。これから町民も意識改革をして、「新生森町」とよく言うが、こういう気持ちになってやっていかななくてはいけないと思う。この基本構想については、すでにスケジュールも制限されており、3月に議会で議決を得るという流れになっている。案については、第7次の総合計画に比べ、かなり町民に分かりやすい言葉になってきていると思う。表現についても、前回の委員の皆さんのご意見を踏まえて修正してある。7日の答申もこの形でいって、町民へは、それぞれの地区で、分かりやすく、それぞれの役の方、リーダーの方、町内会長さんなどのご理解を得ながら、PRしていかなくてはいけないと思う。

来年度、具体的な計画が出される。その時点で、今の考えを、具体的にどうしていくのか、議論を続けることが大事だと思う。

委員： 出来るだけ多くの町民が理解できるようにすることが、大事なことだと思う。可能であれば、流れを図示してもらって、その中に将来像や理念を示して、こういう流れで、町民みんなで行っていくということがわかる解説版のようなものを作成して配布してはどうか。広報もりまちに載せることも良いと思うし、同報無線などを活用しても良いと思う。手段はいろいろあると思うので、工夫してPRしていくことが大事だと思う。

会長： いろいろ貴重なご意見が出たが、基本構想であるので、堅苦しい表現になることもあるが、要は、町民がしっかりと理解し、町民のものにしないでいけないということだと思う。基本構想は構想で

あることから、最終的に基本計画の中でそういうものを分かりやすく表現する方法もあり、また、広報もりまちやリーフレットなどで基本構想を町民に理解してもらう方法もあると思う。理念と将来像の順番を入れ替えるという意見があったかと思うが、その点について意見はあるか。

委員： 町民に分かりやすくするためにそういう方法もあるのかなという
ことで意見を出したのであって、内容を見直せとかそういうこと
ではない。

委員： 内容をとやかく言ったつもりは、毛頭ない。いくらしっかり書いても、読まなければ意味がないと思うので、みんなのものにするための努力は、いくらしてもいいと思う。どうしたら分かりやすいかということに心を砕くということで、こういうやり方もあるかもということでの意見であり、内容は、スケジュール的なこともあり、皆さん大いにご納得というふうには拝見しているので、それを前提として、せっかくここまでやったのだから、町民に分かりやすいものにしてしようということで意見を述べた。

会長： 他にご意見はあるか。

委員： 字句の訂正で、P 9の「2. 健全な行財政運営の推進」の上から2行目の「組織の適正化」というところは、「組織の簡素・効率化」が良いのではないか。

事務局： 方向的には、簡素・効率化ということを示している。簡素化がいいか、効率化がいいか、簡素・効率化がいいのか、他の言葉がいいのか、少し検討させていただき、他に語句の訂正等あれば、会長に一任いただいてご相談していきたいと思う。

会長： この件については、会長に一任いただき、修正していきたいと思うがよろしいか。

(異議なし)

委員： 前回のA 3の資料で、計画全体のところについて、協働のところ
で、「基本計画等によって町民は自分が関わる部分が整理されてくるため、基本計画の策定も出来るだけ町民の意向などが反映される形で進めることが望ましい」という意見に対して「基本計画策定時に検討」となっているが、これについて、第1章P 1の下
の3段、「基本計画などに定める具体的な取り組みについて町民と行政とが互いに連携・協働しながら進めることが求められています」というふう
に基本構想の策定には書かれているが、この表現だと基本計画は、すでに定められていて、そこに町民と行政とが連携・協働しながらというようにとられると思うが、前回出された意見には、基本

計画の策定にも町民の意見を反映させることが望ましいという意見だったと思うが、この基本計画の部分に町民の意見を反映させるような意味合いを持たせる表現にしたらどうか。

事務局： ご指摘の点は、大きくいうと2つあるのかと思う。基本計画というのは、今後作成されるので、そういったことが分かるようにというご指摘かなと思う。また、町民の意向を踏まえて基本計画を作成していくというご指摘については、協働まちづくり委員会、地域ごとの懇談会、町民アンケート調査の自由記載などにも、基本計画の方で検討していくような意見や提案が多く出ている。それらを踏まえて作成していきたいと考えている。

基本計画については、今後作成されて、その作成にあたっては、町民と協働でやっていくんだということをごとどこまで表現出来るかということだと思うが、ここは、基本構想のことをいっているの、どこまで書くのがのぞましいのかということもあり、例えば、先ほどから基本構想の位置づけの話も出ているが、この点も踏まえて広報していく時に、工夫して載せていけばよいのかなとも考えている。

委員： もう1点、第5章P9「1.協働によるまちづくりの推進」の3行目、「町民、企業、自治組織やボランティア団体等と行政とが、互いに」とあるが、そこにNPOを加えてはどうか。森町の中では、まだまだNPOの活動は盛んではない。これからNPOの果たすべき役割というものが大きくなってくると思うが、ボランティア団体等の中に含まれているのかもしれないが。

事務局： ボランティア団体等に含んでいるという整理をしているが、もう少し検討したいと思う。

委員： （ボランティア団体等に）含んだ形で良いと思う。NPOという法人格をとることだけが先行してしているようなところが感じられる。列挙することはやぶさかではないが。

会長： この点につきましては、事務局の方でも検討していただきたい。全体を通して、他にご意見はないか。要は、町民に理解をしてもらわなければならないということであると思う。町民に分かりやすい広報の方法をとっていただきたいと思う。この基本構想については、前回の審議会でもご意見をいただき、次回7日には、答申をしていきたいという予定を申し上げたところである。字句の訂正については、確認をしていきたいとは思いますが、特にご意見が無ければ、この構想にご異議はないかどうか。また、次回の基本構想の答申の際には、審議会でご議論のあったことを意見書のような形でつけていきたいと思う。本日、基本構想について、前回に引き続き、あらためて意見を伺った訳だが、諮問をうけた基本構想案について、これで

よいかどうかについて、お諮りする。

基本構想について、字句等の修正については、7日に再度確認するが、概ねこれでよいということで、ご異議ありませんか。

(異議なし)

会 長： それでは、7日に答申をするような形で進めていきたいと思うので、よろしく願いしたい。

4 その他

事務局： 次回のご案内ですが、2月7日(火)10:00から町民生活センター集会室で行う。お忙しいところ誠に申し訳ないが、ご協力願いたい。ご指摘の字句等の修正については、会長と相談して、会議の冒頭で確認、その後、答申という形で進めていきたいと思う。

町民への周知といった点が主なご意見だったと思うので、そういった点について答申書につける付帯意見のような形で整理させて頂いて、7日に確認したいと思う。資料につきましては、事前にお配りしたいとは思いますが、1週間後であるので、手元に届くのは、直前になってしまうかもしれないが、出来るだけ迅速に対応したい。

会 長： 字句の訂正等についても、出来るだけ早く訂正して、事前配布をお願いしたい。

5 閉 会

(以上)